西側「民主主義国」、批判と戦うのに軍隊を投入してプロパガンダ

Covid-19 ワクチンの強制と、その先にあるもの

RT/ Rachel Marsden
February 3, 2023

ある警告者のおかげで、我々は今、Covid-19（コロナ）関係のロックダウンや、ワクチン命令を批判する者は――著名なジャーナリストや政治家を含めて――英陸軍の情報戦旅団によって、監視されていたことを知るに至った。https://www.dailymail.co.uk/news/article-11687675/Army-spied-lockdown-critics-Sceptics-including-Peter-Hitchens-suspected-watched.html

軍隊の一部で、この活動を展開していたとされる第 77 旅団は、2015 年に創設され、当時メディアによって「武器はもたないが、ツイッターやフェイスブックのような、社会メディアの使い方が巧みで、〈心理作戦〉のような暗黒の術に長けた戦士からなる」者たちだったと評された。

これはすぐれた銃のようなもので、人工的情報監視という道具を与えられて、専門知識をもつ権威的な者たちによって訓練され、国家の奨める通常の Covid 関係の物語とは別の、政府プロパガンダを創り出すやめの、データを集める仕事をした。今、我々にはわかっていることだが、この作戦中に聞こえたすべての批判は、間違い情報として、正当な科学の議論を踏みつぶすものとして一蹴され、陰謀論だとか、有害な間違った説だとか説明された。Covid の始まる前には、ツイッターにおいて、ヨーロッパの編集を受け持つ責任者が、第 77 旅団のパートタイムの係官を兼ねていた。そしてツイッターは、それを問題とはしなかったようだ。

我々はすでに、かつてのアメリカ情報共同体の契約者エドワード・スノーデンから、西側の政府の内部スパイ活動が、かなりやり放題だったことを知っていた。しかし、ごく最近のこれらの情報が明らかにしていることは、**データが武器化されつつあり、同じ市民に対して、型通りの考え（groupthink）を強制するようになり、彼らの知的拘束服（intellectual straitjacket）に当てはまらない者は、誰でも、狂人として扱うようになった。**

そしてイギリスもまた、西側世界の特別の例ではない。カナダの軍隊でもまた、Covid の考え方を形成するのに、アフガニスタンの戦場で磨いたプロパガンダのテクニークを使っていることが露見した。この軍隊が要求したことは、「コロナウィルスの流行の間は、市民の服従拒否をカナダ人によって処罰させ、政府の意図を実行させることだった」と、オタワ市民は言い、軍隊による内部調査が行われたと言う。これを 2020 年に始めた軍隊は、もう今は中止したと主張した。しかし新聞は最近、これを暴露して、カナダ軍がいまだに、社会メディア情報とデータ収集作戦の資金を援助しており、その意図は、数百万ドルを軍-産複合体に投資することであり、カナダ人が自分で自分をスパイし、国家的安全保障という偽装の下に、自分自身の政府によって、自分をよりうまく洗脳させることだと言った。

昨 12 月、AP 通信の報道でわかったことだが、Covid 危機が、多数の国家警察による、この種の地球的監視の拡大を可能にしており、そこにはアフガニスタン、オーストラリア、イスラエル、インド、アメリカが含まれていて、彼らは「テクノロジーとデータを使って、活動家や普通人が旅行するのを妨害し、周辺的な共同社会をいじめ、人々の健康情報を、他の監視団や強制執行の道具に委ねることを狙っている。場合によっては、データは、スパイ集団に共有されることもある。」

これは、祖国を守ることになっている人々が、我々を現実の、生命身体への脅威から護ってくれるという話ではない。それは、政府の命令から逸脱する見解をもつ人々を「保護管理する」ということで、Covid によって始まり終わる話でもない。去年 6 月、カナダの軍隊がこうツイートした：――「我々は、国際的なパートナーたちと協力し、クレムリンの国家スポンサーによる、ウクライナについての間違った情報を、見つけ、修正し、呼びかける仕事をしている。」

昨年 4 月には、米大統領ジョー・バイデンが、国家安全保障省の下に、新しい「誤情報管理局」を設けようとした。これは、ウクライナ外務省への前アドバイザーを頭とするもので、あまりにもグロテスクな偏向のために、結局は中止となった。だからと言って、国内の情報戦争活動がストップしたのではない。国家安保省が、テロへの地球的戦争のための、よりよい国家安保調整機関という口実のもとで、それ自身が現れた。そして現在、この監視兵器庫は、違った見解をもつというだけの市民の弾圧に使われている。

イーロン・マスクという新しいツイッター所有者の下での、ファイルの公開が、政府役人の間の居心地のよい関係に、新しい光を投げかけた。そこでは、ペンタゴン、CIA、それに FBI で働く人々を含め、ツイッターのような、大きなアメリカの社会メディアが、「誤情報」と戦うという口実で、(ロシアのように)地政学的に競争する人々についての、ある物語を、日常的に操作していた。

こうした働きの鈍重な、国内の物語のコントロールについての、ポイントは本当のところ何なのか？

・・・・・・・・・・・・・

もし見解の相違が高まりつつあるのなら、それは、人々の民主的な意志と、彼らに奉仕するように選ばれた人々との間に、断絶があることを明らかに示している。これは疑問を起こさせる――いったい、これら選ばれた役人たちは、人々に対してでなければ、誰に応えるのか？　自由とか透明性の絶え間のない討論があるにもかかわらず､西側の役人たちは、合意をつくり出すことに取り憑かれてしまった。そして明らかに、それを強制する軍隊を展開しようしている。彼らは他の国家を、権威主義だとして弾劾し制裁を加える。その一方で彼らは、自分たちが嫌悪すると主張するそのものに、自分がなっていることを無視している。

［訳者 Greatchain 注］

犯罪的な Covid ワクチンの強制と、ロシアに対する敵視の強制はつながっているという観点による、注目すべき論文である。もうひとつ私が補足するとすれば、アメリカ現政権の不自然な、性的解放の強制である。この 3 つは、別々のようで繋がっている。これらの強制が、現在、過激化して「武器化」し、反対派に対する「拘束服」にさえなっているという。そう言えばなるほど、わが国の現在の新聞やテレビでも、そういうことが起こっている。

新聞もテレビも、この 3 つの方針に従わない者を、犯罪者のように扱っている。アメリカで民主主義が行なわれているなどと主張する者は、今一人もいないだろう。アメリカは今、全体主義、ナチズムの国で、この論文の言う通り、恐ろしいことになっている。これを「民主主義が危ない、デマを飛ばすな」などと、我々を脅すように言うのは、矛盾している。この最後の文章を読み返してほしい――「**彼らは他の国家を権威主義だとして弾劾し制裁を加える。その一方で彼らは、自分たちが嫌悪すると主張するそのものに、自分がなっていることを無視している。**」

こういうことしか書けないなら、圧力によって書くことを許されないなら、やはり新聞記者はやめるべきである。ほかに独立ジャーナリストとして、物書きとして、あなたのすぐれた能力を生かす道は、いくらでもあるはずである。我々を腐らせるだけでなく、あなた自身を腐らせるようなことは、やめるべきである。あなたのすぐれた文章によって、落ち込む若者たちや大人たちを、救うことを考えていただきたい。憎しみの対象であるロシア人が、最も理性があり、我々を納得させ、信頼のおける人たちであることについては、何度も言ってきた。